

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101867
法人名	有限会社 美母愛
事業所名	くまのの郷
所在地	宮崎市大字熊野字熊野7325-1 (電話) 0985-58-2154
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日

【情報提供票より】(20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,500 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 76 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀山記念クリニック、希望が丘歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木造の民家を増改築し、素朴な木板に「くまのの郷」と書かれた表札がさりげなく掲げられている。隣接の菜園には野菜やさつまいも等を利用者と職員が丹精込めて育ててあり、食材として使ったり近所の方々におすそ分けすることもある。近くにはスーパーや神社があり買物や散歩時には地域の人々と挨拶を交わしたり、隣家に利用者が回覧板を届けたり地域の人々との触れ合いがある。又「ふるさと訪問」として利用者が住んでいた家・場所を訪ねて、知人や家族に逢う機会づくりをしている。月4回の訪問看護による健康管理体制があるので家族は安心である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、前向きに取り組んでいる姿勢がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員にサービス評価の目的や意義についてわかりやすく説明している。職員は、評価のねらいや活用方法を理解し、各自が自己評価に取り組み、サービスの向上に繋げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月に1回開催し、利用者の状況やサービスの内容について報告を行っている。また、隣接空地に雑草が生い茂っているため草刈りをお願いしたい旨の相談をしたり運営推進会議を活かした取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等から意見をもらえるように面会時の声かけやご意見記入ノートを設置しているが、運営に反映させるまでには至っていない。家族が意見や不満、苦情等を表せる機会作りに積極的に取り組んでほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣家に回覧板を届けに行ったり、近くのスーパーに買い物に行く時や散歩の時等、挨拶を交わしている。地区の自治会に加入し、健康情報や介護相談案内等を掲載したホーム便りを回覧してもらっている。また、地区の溝渌えや祭りに参加するなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、「くまのの郷5カ条」、「地域参加5カ条」として、わかり易い言葉で表現された事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員採用時に理念について伝え、理解してもらうようにしている。又、日頃から管理者と職員が共に理念を意識し話し合い、実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣家に回覧板を届けに行ったり、近くのスーパーに買い物に行く時や散歩の時など挨拶を交わしている。地区の自治会に加入し、健康情報や介護相談案内等を掲載したホーム便りを回覧してもらっている。又、地区の溝渌えや祭りに参加するなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員にサービス評価の目的や意義をわかりやすく説明している。職員は、評価のねらいや活用方法を理解し、各自が自己評価に取り組んでいる。又、前回の外部評価について改善シートを作成し、前向きに取り組んでいる姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催し、利用者の状況やサービス内容について報告を行っている。又、隣接空地に雑草が生い茂っているので草刈りをお願いしたい旨の相談をした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護長寿課が開催する研修会には積極的に参加し、情報を収集している。又、市から派遣される介護相談員の受け入れを行っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動については、毎月発行しているホーム便りを通じて報告している。又、個人々の健康状態や金銭管理については、家族の面会時や電話により随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見をもらえるように面会時の声かけやご意見記入ノートを用意しているが、運営に反映させるまでには至っていない。又、家族会を設けるなどの取り組みはしていない。	○	近くに在住の家族だけにでも働きかけて家族会を設けるなど、家族が意見や不満、苦情等を表せる機会作りに積極的に取り組んでほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職を必要最小限に抑える努力をしており、新規採用を行った場合は、利用者への紹介やホーム便りで紹介を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、段階に応じた法人内外の研修を受ける機会がある。研修を受けた職員は、復命書により研修内容を報告し、全職員が共有できる仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。研修会に参加するなど交流の機会を持ち情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人と家族をホームに見学に来てもらって、職員や他の利用者と顔馴染になってもらうなど、本人が安心されるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前、華道の師範をされていた利用者を中心に、他の利用者と職員と一緒に活花を楽しんでいる。又、男性職員に野菜の切り方を教えて下さったり、テレビから流れてくる軍歌を聞きながら、戦争体験を話してもらい、平和の大切さを学ぶなど一緒に過ごしながらか共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者寄り添いながら、言動の中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、食事やおやつは利用者の好みのものを提供している。又、ドライブや近隣のスーパーに買い物に出掛けるなど、利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れている。利用者本位の介護計画となるよう全員で話し合い計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、ウィックリープランに沿ってサービス提供し、1か月に1回のモニタリングを行い、3か月に1回の見直しを行っている。更に利用者の状況によっては、必要に応じて随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医に受診時の送迎は要望に応じて柔軟に支援している。部屋に空きがある時は、ショートステイの受け入れを行う体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診を支援している。又、かかりつけ医の往診を受けられる体制があり、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び看取りに関する指針」により利用者のかかりつけ医や協力医療機関及び訪問看護ステーションとの連携体制があり、重度化や終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録書類は事務所に保管されている。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような職員の言動は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事と入浴についてはおおよその時間設定をしているが、基本的には利用者のペースを尊重しながら、本人が望む過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの献立を取り入れ、菜園で収穫した野菜を利用したり、利用者と一緒に食材の買い物に行くなど食事が楽しみなものになるよう支援しているが、職員は、利用者と一緒に食事をせず、持参の弁当を食べている。	○	職員は介助する一方にならずに、利用者と職員が同じものを同じテーブルで食べるような体制作りをしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は設定してはいるが、利用者のその日の意向に合わせて柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花が好きな利用者を中心に華材を選び活花を楽しんだり、隣家へ回覧板を届ける方、菜園作り等、利用者の気持や力を活かした場面がある。また、季節の花見や地域の祭り、利用者が以前住んでいた家や場所を訪ねるなど利用者の楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社に散歩したり、スーパーやドラッグストアーに利用者が希望する品物を買っていくなど、一人ひとりのその日の希望にそった外出の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、日中は鍵をかけない生活を支援している。利用者が外に出る気配がある時は、一緒に歩きながら気を紛らしてもらおうなど工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全員参加による防災訓練を徹底している。日頃より地域住民との連携を図っており、協力体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量についてはチェック、記録を行い、全職員が共有している。又、食後は利用者自身が食事記録表に「食べた」と記録されている。自筆することは利用者の励みとなっており、食べ残しも殆ど無い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、洗面所、浴室には手すりが施され、安全性が確保されている。食堂を兼ねた居間には季節の花が活けてあり、異臭も無く、換気、明るさなど、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、日当たりが良い。利用者は一人ひとりが馴染みのものを持ち込まれ、その人らしい居室となっている。		